

平成20年9月定例議会

# こんにちは No.19 魚沼市議会 です



道光高原 上原コスモス公園

9月定例会・市長行政報告・19年度会計決算 …	2～3ページ
条例制定など ……………	4ページ
19年度決算総括質疑・補正予算 ……………	5ページ
一般質問 ……………	6～11ページ
常任・特別委員会報告 ……………	11～14ページ
活動報告 ……………	15ページ
市民の声・あともがき ……………	16ページ

発行責任者 議長 佐藤 守 広報委員長 星 孝司 副委員長 森山 博  
委員 森山 英敏 五十嵐 昭夫 桜井 将 住安 孝夫

# 収支 4億9,721万円の黒字

## 小出病院は「公設民営」で! (市長行政報告)

### 9月定例会

平成 20 年第 3 回 (9 月) 定例会が、9 月 17 日から 10 月 6 日までの 20 日間の会期で開催されました。

平成 20 年度一般会計、特別会計 3 件、企業会計 2 件の補正予算を始め、5 件の条例改正及び廃止、市道路線の変更、財産の取得、土地の取得及び処分、契約の締結、人権擁護委員候補者の推薦、平成 19 年度一般会計決算をはじめ 11 の特別・企業会計決算の認定など、全部で 31 件の議案が提出されました。

条例改正などについては、それぞれ所管の常任委員会に、平成 19 年度各会計決算の認定については、議長を除く議員全員が委員となる特別委員会に付託され、慎重に審査されました。

そして、当局から提出された議案全てが可決・認定されました。

また、4 件の請願・陳情が提出されました。結果は 4 ページのとおりです。

議会自ら提出し、決定する発議についても可決されました。

市長の行政報告では、再編後の小出病院についての方向付けなど報告がありました。主な内容は次のとおりです。

### 市長行政報告

#### 再編後の小出病院の基本的な考え方

- 運営母体  
公設民営方式 (指定管理者制度の導入) による医療提供体制の整備
- 規模等  
病床数……………一般病床 100 床程度  
診療機能……………一般初期医療、へき地医療、在宅訪問診療機能、休日一次救急医療等
- 診療科目……………内科 (透析含む)、整形外科、産婦人科、小児科、精神科を中心
- 医師確保対策……………新潟県との間で、持続可能な医師派遣の仕組みづくりを進める。
- その他・後継施設整備計画……………市民の積極的かつ建設的な意見を尊重し、関係機関と調整を図り、方向を明らかにする。

分担金・負担金  
2億8,546万円  
1.5%

使用料及び手数料  
5億9,555万2千円  
2.4%

積立金・投資出資貸付金  
16億5,687万6千円  
6.8%

物件費  
36億949万2千円  
14.9%

扶助費  
18億1,047万9千円  
7.5%

# 19年度一般会計形式

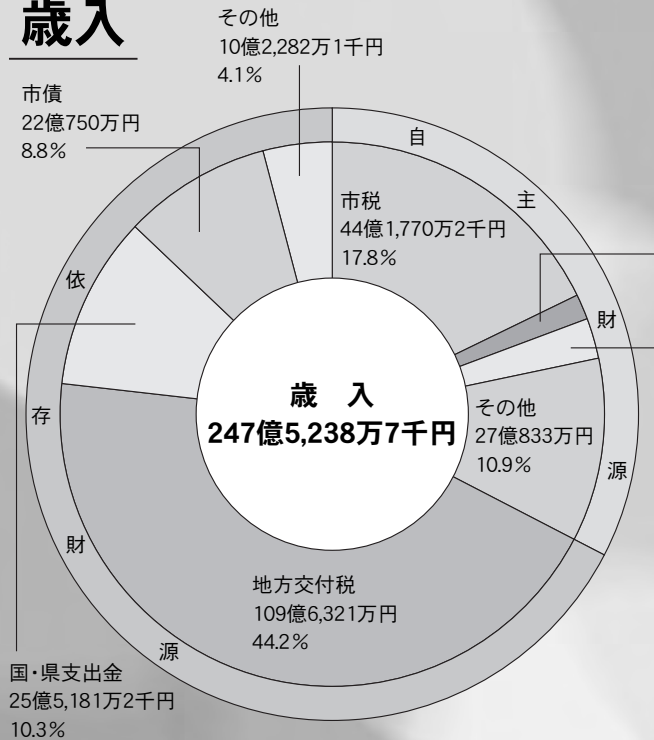
## 一般・特別・企業会計決算

単位：千円

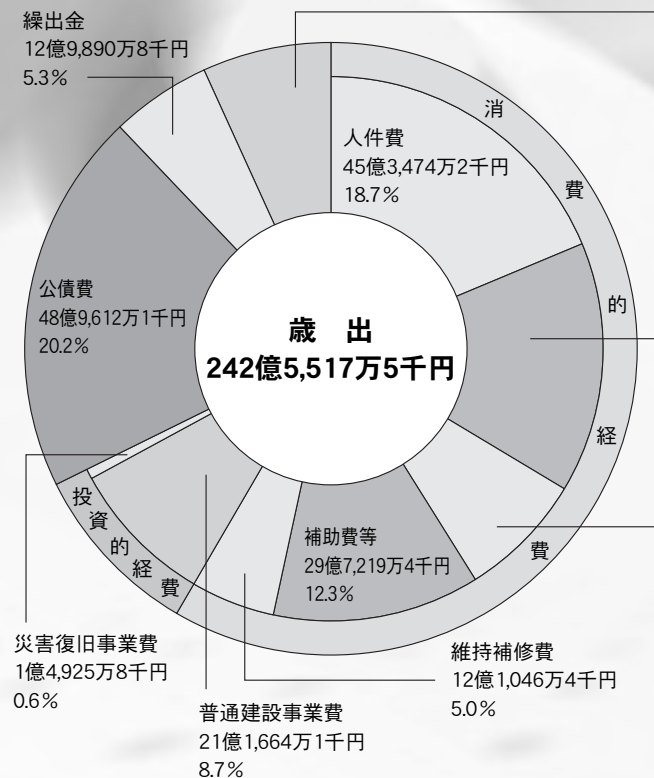
会計名		歳(収)入	歳(支)出	差 引
一般会計		24,752,387	24,255,175	497,212
特別会計	国民健康保険 事業勘定	3,926,570	3,925,872	698
	国民健康保険 直営診療所施設勘定	255,008	254,765	243
	老人保険	4,269,265	4,330,890	△ 61,625
	介護保険	3,269,572	3,235,532	34,040
	診療所	73,428	73,202	226
	スキー場事業	217,849	217,670	179
	簡易水道事業	411,147	411,134	13
企業会計	病院事業 収益的収支	881,308	892,473	△ 11,165
	病院事業 資本的収支	40,997	60,220	△ 19,223
	ガス事業 収益的収支	884,832	750,795	134,037
	ガス事業 資本的収支	3,944	264,412	△ 260,468
	上水道事業 収益的収支	339,240	297,039	42,201
	上水道事業 資本的収支	128,824	345,499	△ 216,675
	簡易水道事業 収益的収支	119,037	104,351	14,686
	簡易水道事業 資本的収支	9,200	44,100	△ 34,900
	下水道事業 収益的収支	2,322,610	2,262,350	60,260
	下水道事業 資本的収支	1,279,453	2,043,245	△ 763,792

資本的収入額が資本的支出額に不足する額は、過年度損益勘定留保資金、当年度損益勘定留保資金などで補てん

## 歳入



## 歳出



# 条例制定及び改廃

## 条 例

- 議案第95号 入広瀬村営通学福祉バス条例の廃止について  
……………原案可決(全会一致)  
市営有償バスの運行を廃止し無料バスにするもの
- 議案第96号 長岡地域土地開発公社定款の一部変更について……………原案可決(全会一致)  
法律の一部改正に伴い変更するもの
- 議案第99号 公益法人等への魚沼市職員の派遣等に関する条例及び魚沼市認可地縁団体印鑑条例の一部改正について……………原案可決(全会一致)  
法律の施行に伴い所要の改正をするもの
- 議案第100号 魚沼市ケーブルテレビ施設条例の一部改正について……………原案可決(賛成多数)  
堀之内地区の業務拡張に伴い、所要の改正をするもの
- 議案第101号 魚沼市入広瀬民俗資料館条例の廃止について……………原案可決(全会一致)  
地元で活用するため廃止するもの
- 議案第102号 魚沼市林野条例の一部改正について……………原案可決(全会一致)  
公益法人制度改革に伴い所要の改正をするもの

## 請 願

- 請願第6号 燃料、肥料、飼料、農業資材等の価格高騰に対する緊急対策を求める請願……………継続審査
- 請願第7号 郵政民営化法案の見直しに関する請願書  
……………採 択(全会一致)
- 請願第8号 介護労働者の処遇改善をはじめ介護保険制度の改善を求める請願……………採 択(賛成多数)

## 意 見 書

- 郵政民営化法案の見直しに関する意見書
- 介護労働者の処遇改善を初めとする介護保険制度の改善を求める意見書
- 国による公的森林整備の推進と国有林野事業の健全化を求める意見書
- 新たな過疎対策法の制定に関する意見書
- 地域医療を守る意見書
- 道路特定財源の一般財源化に伴う地方の道路予算確保に関する意見書
- 拉致事件早期解決のための北朝鮮に対する経済制裁措置の一部解除に関する意見書

## そ の 他

- 議案第76号 専決処分の承認を求めることについて(魚沼市議会議員の報酬及び費用弁償等に関する条例等の一部改正について)……………承 認(全会一致)
- 議案第97号 ごみ処理設備監視制御システム更新工事請負契約の締結について……………原案可決(全会一致)  
更新工事費の予定価格が1億5千万以上である
- 議案第98号 人権擁護委員候補者の推薦について……………適 任(全会一致)
- 議案第103号 魚沼市道路線の変更について……………原案可決(全会一致)
- 議案第104号 財産(除雪ドーザ)の取得について……………原案可決(全会一致)
- 議案第105号 土地の取得について……………原案可決(賛成多数)
- 議案第106号 土地の処分について……………原案可決(全会一致)
- 発議第13号 魚沼市議会会議規則の一部改正について……………原案可決(全会一致)
- 発議第14号 新たな過疎対策法の制定に関する意見書の提出について……………原案可決(全会一致)
- 発議第15号 地域医療を守る意見書の提出について……………原案可決(全会一致)
- 発議第16号 道路特定財源の一般財源化に伴う地方の道路予算確保に関する意見書の提出について……………原案可決(全会一致)
- 発議第17号 拉致事件早期解決のための北朝鮮に対する経済制裁措置の一部解除に関する意見書の提出について……………原案可決(全会一致)
- 発議第18号 地方自治法180条第1項の規定に基づく市長の専決処分事項の指定について……………原案可決(賛成多数)
- 発議第19号 小出病院等対策調査特別委員会委員の定数の変更について……………原案可決(全会一致)
- 選任第2号 広報編集特別委員会委員の選任について……………選 任(全会一致)
- 議席の一部変更について……………原案可決(全会一致)

## 陳 情

- 陳情第5号 「国による公的森林整備の推進と国有林野事業の健全化を求める」意見書の提出を求める陳情について……………採 択(全会一致)
- 「地方消費者行政の抜本的拡充に必要な法制度の整備及び財政措置を政府等に求める意見書」の採択を求める陳情書……………配 布

# 19年度決算総括質疑(主な総括質疑)

**問** 県道堀之内小出線について、県の事業ではあるが、地元関係者と協力して、全線開通ができるよう取り組む考えに立っているか。

**答** そのように考えている。

**問** 高速道路小出IC駐車場の設置について、現状の駐車場の拡張が不可能なので市の対応としてどのような取り組みがされているか。

**答** 県道堀之内小出線供用開始時に使用できるよう、設置に向けて検討している。

**問** 重症心身障がい児(者)のショートステイについて、利用者は地元で設置して欲しいと要望しているが、地域医療のあり方の中で検討されているか。

**答** 現段階では検討していないが、今後の課題と考える。

**問** 2008年決算から適用になる財政健全化の4指標、一つでも該当すればイエローカードで早期健全化をせまられる。07年該当したが、住民も市のふところ具合、知り

たいはず。第三セクター、公社含め、市の借入れ総額を示すデータの必要性と情報開示を。透明度を高めて、わかりやすく知らせるべきだが。

**答** 財政課窓口や市のホームページに記載する予定。できるだけわかりやすく示せるよう心がけたい。

**問** 6庁舎管理で年間1億3千万円かかっているが、委託清掃の経費を減らすために

も、民間企業では当然の身のまわり、トイレ、玄関の掃除は職員でやるべきではないか。

**答** 事務室は業務終了後掃除しているが、他は今後検討する。

**問** 方針決定の後で住民に説明する場が多いが、それでは住民の声を聞いたことにならないのでは。

**答** いろいろな方法で市民の声を聞いている。

**問** 合併当時と現在の事業所数の推移は。

合併当時と現在の事業所数は、市内にどれだけあるか。また、その対策は。

**答** それぞれ直近の総務省事業所統計では、15年が2,522,18年が2,636で、4.5%の上昇。

**問** 中小企業基本法に基づく現状認識と今後の取組みは。

**答** 経済発展の活力の源であると認識している。雇用の場の確保から、個別企業の新技術の支援や農工業の連携の支援が必要と考えている。

**問** 魚沼圏域二次医療圏内の基準病床数は2,368で、実病床数は2,351とほぼ同じになっているが、病床数の確保と医療機関ごとの病床配置の構想は。

**答** 小千谷市と川口町は長岡市を含む中越圏域を希望しており、その場合基準病床数が減少するが、医療機関ごとの病床数は具体的な状況ではない。

**問** テレビの地上デジタル化移行対策として、共同受信施設など特別対策の必要な施設は、市内にどれだけあるか。

また、その対策は。

**答** 小規模工事登録制度に基づく平成19年度中の発注件数と発注総額は。また、平成20年度の間接数は。

**問** 平成19年度は、契約件数361件、契約金額で2,405万4千円。平成20年度の間、8月末までの実績は、件数が95件、金額が541万7千円となっている。

**問** 適正な定員管理については、前年比17人減と、努力をしているが、ピッチが少し遅いのではないかと思うが。

**答** 職員の定員適正化計画を目標に努力している。

**問** 職員採用の抑制、給料減、ノー残業デーなどにより、3億円の減額となっている努力は認めるが、まだまだ認識が甘い。魚沼市の現状はもっと厳しいと思うが。

**答** 17年度決算と比べ、職員数で39人減、人件費で約6億円の減となっている。今後職員に周知し、努力する。

地形的な環境の難聴対策の施設が25あり、地デジの開設計に合わせ、個別に対応する予定。都市型の共同受信施設7のうち、魚沼市設置が起因する5施設は対応予定。

## 補正予算

単位：千円

会計名	補正前の額	補正額	合計	説明	
一般会計	25,400,434	129,018	25,529,452	総合行政システム導入 9,630 地域情報ネットワーク事業 12,000 農林水産業総合振興事業 7,674 企業誘致対策事業 22,750 など	
特別会計	国民健康保険特別会計	4,037,000	24,977	4,061,977	前年度交付金の償還金
	後期高齢者医療特別会計	790,000	1,025	791,025	徴収事務費
	介護保険特別会計	3,420,000	32,322	3,452,322	前年度交付金の償還金など
企業会計	上水道事業会計	322,000	4,100	326,100	水道管仮設工事費
	簡易水道事業会計	124,000	1,159	125,159	団地売却費
	収益的支出	119,000	1,000	120,000	給水管移設工事費
	資本的収入	10,003	119	10,122	団地売却費
	資本的支出	77,000	52	77,052	消費税相当額返還金

# 一般質問

(通告順)



市長任期最後の一般質問  
10人の議員が質問を行った。

## 星野市長の政治姿勢を問う



住安 孝夫 議員

ではない。市民の声を聴く耳と、時代の変化に機敏に対応できる行動力をもって、誠心誠意努力する。

きたい。今後機会を設け、市民の要望や不満解消に努力する。

地域の賃金水準を上げるために

**問** オートレース場外車券場やタイケン学園誘致など、星野市長が過去に手がけてきた事業には、不成功の事例がいくつも見られる。どのような反省をしているのか。

いま推進している有機センターや工業団地なども採算性などに不安が多い。これまでの失敗の轍を踏まない自信があるか。

**答** その時々の住民のニーズに押され、国・県の施策を見据え、議会のコンセンサスを得ながら取り組んできたが、時代の流れや住民のニーズの変化によって、政策転換を迫られる事案もないわ

**問** 国や県に弱腰ではないか

県が魚沼地域の二次医療から撤退しようとしているのに、市長はこれに異を唱えない。市民は不安に思っている。もっと積極的に発言すべきではないか。

**答** 医療再編の前提条件となつている役割分担によって、二次医療、三次医療は基幹病院が、プライマリケアなどの一次医療は地元自治体が責任をもって体制整備に努めることになっている。

今後ともこれを基本に、安全・安心の医療提供体制の整備に取り組んでい

**問** 住民のふところが温かくなると地域経済は本当の意味で活性化しない。市の事業を請負業者には、例えば時給千円以上を義務付ける「公契約条例」の制定を検討する気はないか。ILO条約に規定がある。

**答** ILOにおいて、1949年に「公契約における労働条項に関する条約」が採択されているが、我が国においては、法体系等異なることから批准されていない。一自治体の問題ではなく、国が取り組むべきものとする。

# 集中改革プランの検証について



佐藤 貞一 議員

## 地場産業の振興策について

### 問 1 ものづくり協議会の組織強化について

企業誘致室に倣い地場産業復興室を設置し、各業種別に専従スタッフの集中エネルギーでの対応を求めたい。

### 2 周辺地域の活性化策について

市民センターはただの窓口か。周辺（山間）地域は限界集落との表現もあり、活性化を官民協働で練り上げる必要がある。周辺地域産業振興室の設置も求めたい。

### 答 1 長岡技術科学

大学との共同開発や、にいがた産業創造機構、新潟県工業技術総合研究所の技術支援を得るネットワークも構築されてきた。現行の商工振興で、企業のスピードに即応できる対応を図りたい。

### 2 専門部署の配置につ

## 学区再編計画について

### 問 「一体いつ統合になるの。」お茶の間の声

だ。4中学（東、西、南、北）への統合時期を問う。再編案では平成28年度を「再編計画への取組む準備が整う目標年度」とあるがよくわからない。統合迄のタイムスケジュールは。

### 答 4 中学校区に移行

するには、新しい学校の建設が必要になる学校区があるが、現在は耐震化と大規模改修が緊急課題で、財政的に厳しい状況下にある。今後の財政状況の推移を見ながら、建設の時期を判断したい。



五十嵐 昭夫 議員

# 公共サービス誰が担うか

## 問 人口が減り、財政

厳しい折、「公共サービスは行政だけが担うもの」という思い込みから脱却し、官民協働に基づいて、公的部門の行政占有からの縮小を図るべき。日本ほど自治体が多くの行政サービスをしている国はない。

### 答 全ての事業を市場に曝

して、その内容、事業費、それに関わる職員の人件費を全面公開し、不要改善、民間への移行、現行通り等でふるいにかけ、住民にとって誰が担えばいいのか判断すべき。結果、民間で出来ない

## 公共サービスは自治体が

責任をもって供給すればいい。住民も要望や不満をぶつけるだけでは行政は肥大化するばかりだ。

### 自分達で出来るものは

住民の力で担う、という自治の原点にもどるべきであり、事業の仕分けを図りながら住民が行政サービスの担い手になれば「行政は限りなく小さくなる」だろう。公共の仕事は民間団体等に分担させる事は、住民の自治への参加意欲を高め、雇用の場を広げ、行政をスリム化することが可能になり一石三鳥の効果が生まれるが、市長の見解を伺う。

## 答

地方自治体における公共サービスは、経済の高度成長期以降、その守備範囲を広げ、本来の業務ではない事業に関与したり、誘導したりすることによって、地域社会に刺激や経済効果をもたらす期待が寄せられたものと考えている。行政が市民のニーズに応える形でサービスの裾野を広げることによって、地域コミュニティ機能まで奪ったとの声も聞かれる。ご指摘の部分は、市民の理解と協力、意識改革が不可欠であるが、古き良き農村社会の土壌である互助、共助、自助の精神を掲げ、取り組む。

# 星野市政の4年間の検証について



森島 守人 議員

### 問

星野市政の評価については、最終的には市民が行うが、4年間の魚沼市の検証について、市長としてどう捉えているのか4点について問う。

- 1 市民一体のまちづくりについて。
- 2 財政運営について。
- 3 経済対策について。
- 4 教育の充実について。

### 答

1 市民と行政が協働する仕組みづくりとして、まちづくり委員会が設立され、協働の取組がスタートした。さらに、入広瀬コミュニティ協議会が設立され、守門、広

神地域においても検討会が立ち上がるなど、時代に即した対応をいただいている。引き続き、多くの市民の参画を得ながら、幅広い活動に発展することを願っている。

2 魚沼市財政健全化計画を策定し、効率的な行財政運営を行い、適正な予算規模に向けた取組を行っている。

3 市内には、全国に誇れる技術や製品が埋もれていると考えており、1社ではできないことを複数の会社で取り組むなど、市内企業の振興を図ってきた。景気・雇用対策として、企業、大学、研究機関との連携による新規製品の開発も手がけてきたことにより、ネットワークも整っている。

4 生きる力を育む教育

を推進し、地域に密着した学校づくりと施設の環境整備を行い、誰でも、いつでも学べる仕組みを構築し推進してきた。

### 問

2期目への出馬表明をした市長は、今後どのような施策を考え、魚沼市の未来像をどう描いているのか問う。

### 答

市民の暮らしと命を守り、笑顔あふれるまちづくり、次代を担う人材を育て、資源を活かし地域価値を高め、市民目線による開かれた市政を築くため、それぞれ施策を掲げ、誠心誠意、新生魚沼市の基盤づくりに邁進する覚悟である。

# 公立病院改革プラン策定について



桜井 稔 議員

### 問

堀之内病院を設置している魚沼市の責務として地域に於ける必要な医療を安定的、継続的に提供出来る体制づくりを目指した経営指標を設定した改革プラン策定が国から義務づけられた。

- 1 プラン策定スケジュール、策定組織の詳細、基本的内容を示せ。
- 2 採算性優先は公立病院不要論になる危険があるが。
- 3 医療規模、人材確保の為の労働環境づくりは。
- 4 国からの交付税は100%病院経営に運用されているか、繰り出し基準はルール化されているか。
- 5 小出病院の存廃、基

幹病院構想など魚沼市を取りまく現況は混乱不安が生じている。明確な医療機能確保プランを示せ。

6 療養病床・回復期精神病床削減は、地域医療機能の低下を生じる。その対策は。

### 答

1 経営効率化にかかる部分は3年程度、再編・ネットワーク化及び経営形態の見直しに係る実施計画は5年程度の期間を対象として策定することを標準としている。堀之内病院の改革プランは、内部で検討を行っているが、基幹病院や再編後の小出病院の全体像が明らかになるまで、独自のプラン策定は難しいと考える。

2 公立病院改革プランの目的は、安定した経営の下で、地域において必要な医療提供体制の確保を図るために行われるものである。

3 魚沼基幹病院(仮称)や小出病院の全体像が明らかになるまで、現状のまま推移することとなる。人材確保については、鋭意努力していく。

4 地方交付税の病院に関するものは、ほかの事業には繰り出していない。

5 基幹病院との機能分担、医師確保対策、状況の変化など調整しなければならぬ部分もあるが、先般示した基本的な考え方で、関係機関と調整し進めさせていた。

6 小出病院の療養病床は承知していない。精神病床は現在100床が稼動し、平成19年度稼働率は87%となっている。きちんとケアできる仕組みづくりに努めていく。



# 堀之内地区分館活動の方向性は



大屋 角政 議員

### 問

1 堀之内地区の分館統合などが方針として出されているようですが、今後の方向性をどのように考えているのか。また、分館統合の理由は何か。

2 奥只見レクリエーション都市公園について、現在、根小屋地域の公園を含む6カ所の公園管理を、県が指定管理者として「むつみグループ」が行っている。地元からは、「地元業者が入れず地域振興になっていない」「業者と意思の疎通が取れない」などの意見が上がっている。

そこで、3年に1度の県の指定管理者選定にあたって、6カ所の管理から、自治体ごとあるいは1カ所ごとの指定とし、地元業者を指定するよう求めてはどうか。

### 答

1 少子高齢化の影響で、小さな分館は運営が大変になっている。現在の6分館を4分館にすることを提案したもので、相互の協議により進

められることが基本と考える。  
2 地元等との融和に努力しているものと思っ

ているが、21年度以降の指定管理については、市内からの応募団体があり、要請があれば、市でも応援したいと考える。仮に地元以外の団体が指定管理者に選定された場合は、県や指定管理者に、協力要請を行うつもりである。



奥只見レクリエーション都市公園  
「根小屋花と緑と雪の里」



星野 邦子 議員

### 問

食料自給率が39%まで低下し、将来に深刻な食料危機が見える。

国は「新農政08」でパンや麺に積極的に米粉を使うとの方針を出した。米どころの魚沼市の取り組みはどうか。

日本では出回る米粉の9割が輸入米でミニママアセス米が使われている。原産地表示の義務を国に求め、地産地消推進で国産米粉の普及を図れば減反政策にも歯止めがかかるのではないかと。

地域の人口と食料生産のバランスを示す目安として、地域食料自給率試算ソフトで試算すると、魚沼市の食料自給率

は、100%となる。食料自給率や地産地消の取り組み目標の設定は、魚沼市地産地消推進協議会で、今後検討していく。

### 問

地元の野菜を使った創作料理コンテストの実施や「おいしい魚沼―地産地消レポート」を、毎月シリーズで市報うおぬまに掲載するなど、地場産農産物の消費拡大に向けた啓発を行っている。また、安定的な食糧供給を図るための農地確保が必要なことから、耕作放棄地の解消を目的とした取組に着手している。

### 事業仕分けの必要性を問う

1 平成18年3月に出された「行政改革大綱」「集中改革プラン」による成果はどうか。  
2 事業仕分けの成果として職員・住民ともに財

政面だけではない意識改革ができたと思う。魚沼市にも必要なことではないか。

### 答

1 行政のスリム化は、官民の役割分担を明確にし、少数精鋭、政策立案型の市役所機構、行政機構への転換が必要との考えである。行政改革の基本的な方向を踏まえ、市職員人件費の5%カット、定年前退職などの職員数抑制、経費の適正化等で、平成18年度決算と19年度予算との比較で、5億2、330万円の削減効果が得られた。  
2 行政改革推進委員会について、必要性、適否、事業内容の見直しの是非などを点検してきた。作業方法など異なる部分はあるが、その趣旨は十分理解しているつもりであり、今後の検討課題とする。

# 食料自給率向上への取り組み目標を設定せよ

# 薬害C型肝炎被害者の救済について



星 孝司 議員

医療費助成を受けている方が少数いるが、人数については公表できないとの回答であった。

**問** 被害者は病気の進行、高い治療費負担、生活困難に生活支援を求めている。市としての対応は。

- 1 当市における被害者の実態はどうなっているか。
- 2 患者であることを知らずにいる人もいるが、市として検査を呼びかけられないか。
- 3 被害者の為の相談窓口を開設してはどうか。
- 4 カルテのない被害者に対して、市として支援はできないか。

**答** 1 窓口は県で行っており、市では被害者の実態を把握していない。新潟県に照会したところ、当市においても、

発達障がい者に対する施策について

**問** 障がい差別、区別するのではなく、違いを認めあい、互いに尊重しあい、共に生きていく

- 1 就労支援体制の整備拡充を図ることはできないか。
- 2 理解、啓発の促進を進められないか。

2 過去に肝炎検査を受けたことのない方には、基本健診・特定健診の会場で、本人の希望を確認し、肝炎検査を実施しており、広報誌等を通じて呼びかけてきた。

**答** 1 市としては、新潟県発達障害者支援センターとの連携を密にし、魚沼地域自立支援協議会で支援体制や取り組みを検討していく必要がある。

# 市長の政治姿勢について



森山 英敏 議員

**問** 市長は9月17日、議会も開かれていたのに突然、記者会見を行い、再編後の小出病院について考え方を発表した。それによると運営方式は、指定管理者制度による、公設民営方式にしたいと

2 正しい理解を深め、広めるため、啓発運動を行い、二次障害の防止や自立、社会参加の促進を図るための施策に取り組んでいく。

助金が見込めなくなったのに、補正予算も提案しないで執行した。常日頃、市民目線による開かれた市政を掲げていたのにこれでは、公約無視もはなはだしい。なぜこのような拙速なことをしたのか、市長の政治姿勢を問う。

**答** 地方分権改革の進展によって、パブリックコメントの導入、各種審議会活用の活用、市民協働の仕組みなどの手法が各地で浸透しつつある中、議会と首長は、お互い住民の代表機関として、緊張関係を保持しながら、協力して市政運営にあたる責任を共有している。ご指摘の部分は、市民の声を市政に反映するため、市民の参画を得ながら

ら検討を重ねてきた経緯を踏まえ、住民の代表機関としての責任と権限を果たすため、政策として公表したもので、これまでの政治姿勢になんら反するものではない。



建設中の有機センター

# かくれた市民の声にどう応えるか



山之内 伸一郎 議員

**問** 続投を求める市民の声に押されての再出馬表明だと思いが、決断するまでの心境と決意は。

魚沼を取り巻く閉塞感、財政難や産業基盤の弱さから、「とにかく魚沼を変えてくれ」という批判も多く聞かれるが、どう対処するか。融和、激変緩和から、思い切った改革断行、決断のリーダーシップを発揮する「生まれ変わった星野芳昭」を期待したいが、その決意はどうか。

**答** 合併時、新魚沼市長として、均衡と融和、市民との対話を念頭にスタートすることを考えて

いたが、中越大震災、豪雪、豪雨災害の発生で、大きく方向転換をしなければならぬこととなり、描いた計画の進捗に大きく影響した。復旧・復興中心の4年間、ようやく進むべき方向、基盤の形が見えてきた。確実に、着実に前進させるため、再度皆様の判断を仰ぐべきと考え、挑戦を決断した。笑顔があふれる、誇れるまちづくりのため、苦しい今こそ、知恵、英知を結集し、悲観論のみを先行させることなく、逆転の発想も取り入れながら、地域にあった方策を探っていくべきと考ええる。これまでケース・バイ・ケースで判断し進んできたつもりであり、今後これもこれを基本にする考えである。

**問** 時代の変化で空き屋のみならず、放置家屋が散見され、地域の人才は苦慮している。

中には危険家屋になっても、巻、親類も知らぬふりが多い時代となったが、個人財産に手をつけることは簡単にはできない。国へ強制力を持った撤去指導ができるよう法整備の働きかけができないか。

**答** 防災、防犯の観点から、居住環境の向上を図ることは重要な課題と考えるが、個人財産の処分には、解決すべき問題がある。当面の対策として、田舎暮らし推進事業等、新潟県と共同で空家バンクの整備と都市への情報提供の取組を進めている。

閉会中の調査事件  
1 須原小学校「ことばの教室」・小出小学校「なかよし教室」の2教室を視察し、現状や課題について説明を受けた。

## 総務文教委員会報告

9月5日

閉会中の調査事件

1 須原小学校「ことばの教室」・小出小学校「なかよし教室」の2

教室を視察し、現状や課題について説明を受けた。

建物は市の所有であり、地域振興公社が管理している。

その他  
発議第14号 新たな過疎対策法の制定に関する意見書の提出について  
内容  
現行の「過疎地域自立促進特別措置法」は、平成22年3月末をもって終わりになるが、過疎地域が果たしている多面的・公共的機能を今後も維持していくためには、引き続き過疎対策を充実、強化させるための意見書を提出。

9月19日

審査事件

請願第4号 郵政民営化

法案の見直しに関する請願書

採択

議案第99号、議案第101号  
原案可決

議案第1001号 魚沼市

入広瀬民俗資料館の廃止について

**問** 資料館の現状をお聞かせいただきたい。

**答** 民俗資料館としての一定の役目が終わった。

**答** 個人のものについては、確認をしてお借りすることになる。

**問** ぜひ、「田舎暮らし」の拠点として活用願いたい。

**答** 貴重な財産であり、歴史のあるものと考えている。



入広瀬民俗資料館

# 福祉環境委員会報告

9月2日

閉会中の調査事件

栃尾クリーンセンターと  
栃尾最終処分場視察

平成17年3月使用開始

屋根付き最終処分場

栃尾最終処分場の概要

総事業費

約10億6、600万円

(内3/4補助金)

年間処理量

1、325m<sup>3</sup>

埋立容量

15、657m<sup>3</sup>

埋立対象物

不燃残渣、焼却残渣

ランニングコスト

923万円/年

(人件費を除く薬、電気、  
油など)

●隣地にあと3棟分の敷  
地購入済みで40年分を見  
込んである。

●残渣から出る水を循環  
して使用しているが、塩

分を含むため鉄管がさび  
ることが課題。

9月22日

審査事件

請願第8号 介護労働者

の処遇改善をはじめ介護

保険制度の改善を求める

請願 採択

地域医療を守る意見書の

提出について

協議し、出席委員全員

で発議することとした。

1 現地視察の総括

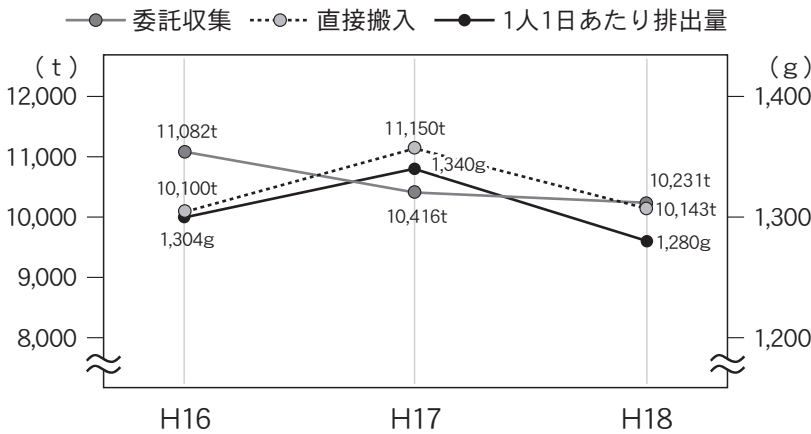
●10年で満杯の予定を延  
長させるには住民の「こ

みを出さない」意識に依  
るところが大きいのでは  
ないか。

●焼却炭の搬送先である

山形の民間最終処分場も  
期限があるので、ごみの  
減量化は目標を定めて取  
り組む必要がある。

## 魚沼市のごみ排出量等の数値 (H16~H18)



※災害ごみは除いています。

●1人当りのごみの排出  
量は10年間の平均では県  
平均1、175gに対し  
魚沼市は1、138gで  
やや少ない。18年度だけ  
で見ると平均1、169  
gに対し、市は1、28



リサイクルされるペットボトル

# 産業建設委員会報告

8月7日

調査事件

1 魚沼市地域振興センター

管理状況について

魚沼市地域振興センターを視察し、担当課や施設内の占有団体から説明を受けた。また、占有団体に対する施設使用料の考え方について確認を行った。

2 その他

委員長提案による行政視察の予定について確認し、寿和温泉施設復旧工事の進捗状況について、行政改革の今後の取り組みについて、水の郷工業団地の進捗状況について質問が出され説明を受け、質疑を行った。

9月24日

審査事件

請願第6号 燃料・肥料・飼料・農業資材等の価格

高騰に対する緊急対策を求める請願 継続審査

産業建設委員会の全委員で本会議最終日に発議することに決定した。

陳情第5号 「国による公的森林整備の推進と国有林野事業の健全化を求める」意見書の提出を求める陳情について 採 択

閉会中の所管事務等の調査について 実施することとし、内容については正副委員長に一任することとした。

議案第102号〜議案第106号 原案可決

道路特定財源の一般財源化に伴う地方の道路予算確保に関する意見書について

その他

1 魚沼市建築物耐震改修促進計画について

員長に一任することとした。

内容について当局から説明を受け、質疑を行った。

## 小出病院等対策調査特別委員会報告

9月22日

1 委員長の選任について

大平悦子議員の辞職に伴い、佐藤貞一委員を選任した。

皆さんは不安に思う。市は考慮しながら対応するのかが。

「公設民営」との形が出るという支障がある。対応は考慮しながら進める。

7年後には基幹病院が開院予定。民営方法が早目に手を打つべきと思うが。

民営の中身はまだ内定の段階ではない。基幹病院と小出病院は車の両輪、一緒に進めたい。

経営への参入について

近々に院長候補(基幹病院)の発表と聞く。大事なことで、県の指導も受け、又皆様から知恵を。

羽根川等、周辺地域は病院城下町。規模縮小に伴い、雇用、商売が危具される。影響は。

センター方式を検討。福祉保健、検診の拠点と位置づけ町並み形成を守りたい。

100床の内容は。基幹病院での術後の療養のための病床か。小出病院での外来診療からの入院もあるか。

両方入ると思う。

直営方式の断念理由は。堀之内病院もあり経営的な面、医師の確保等課題が多い。

「公設民営」方式は、現小出病院で働いている

「公設民営」方式は、現小出病院で働いている

「公設民営」方式は、現小出病院で働いている

「公設民営」方式は、現小出病院で働いている

「公設民営」方式は、現小出病院で働いている



かけはし視察



# 庁舎再編調査 特別委員会報告

8月28日  
調査事件

1 庁舎再編に関する現  
分庁舎方式と本庁舎方  
式の経費比較について

- ① 現庁舎の現況
  - ② 現庁舎の耐震状況
  - ③ 庁舎維持管理推計
  - ④ 現庁舎間移動に伴う  
人件費及び燃料費
  - ⑤ 現庁舎の改築費推計
  - ⑥ ソフト、ハード面な  
ど各種経費比較
- などの資料をもとに審  
議した。

ど外局で働く職員の比率  
で換算すると、魚沼市の  
本庁舎内職員を、250  
人と想定した。

**問** 本庁舎方式にした場  
合、分庁舎の改築、解体  
を含めて、後の有効利用

など、重要な問題と思う  
がどうか。

**答** 今度の検討課題である。  
**問** 撤退したアルプス電  
気の施設は、500人の  
職員が入る規模で、しか  
も駐車場は400台は可  
能だというが、この施設  
を本庁舎としての選択肢  
はないのか。

**問** 魚沼市では、平成27  
年度には250人の職員  
を想定しているのか。

**答** 一般職員は545人  
の適性化計画があるが、  
消防、医療機関、保育な  
り

**答** アルプス電気施設  
が庁舎として有効利用す  
る為には、どういう課題  
があるのか検討はまだし  
ていないが、11月上旬に

は市民検討委員会から答  
申が出るので、それを受  
けながら加味する必要が  
あるか検討する。

今後の進め方

市民検討委員会の最終  
結論を見た上で、特別委  
員会としてはその資料を  
参考にし、慎重に審議し  
ていくものとする。



## 6庁舎の現況

	堀之内	小 出	湯之谷	広 神	守 門	入広瀬
建築年月	1983年6月 (昭和58年)	1979年7月 (昭和54年)	1998年12月 (平成10年)	1987年7月 (昭和62年)	1985年7月 (昭和60年)	1978年11月 (昭和53年)
経過年数	24年	28年	9年	20年	22年	29年
構 造	鉄骨鉄筋コンクリート		鉄筋コンクリート	鉄骨鉄筋コンクリート		
階 層	3F	3F	3F	3F	3F	3F・B1F
敷地面積	3,598.48㎡	4,163.46㎡	7,491.82㎡	7,542.04㎡	10,400.00㎡	2,220.81㎡
総床面積	2,187.18㎡	2,190.19㎡	3,479.92㎡	2,665.01㎡	2,650.98㎡	2,345.50㎡
年間維持 管理費(千円)	20,519	27,730	23,300	23,360	23,692	17,754
職 員 数	44人	70人	68人	58人	70人	10人
駐車台数	130台	67台	178台	170台	80台	60台

## ● 平成20年度自然公園ふれあい全国大会開催される ●

つなげよう はるかな尾瀬から みんなの自然

尾瀬国立公園誕生 1周年

エコツーリズム推進法施行記念

開催日 8月30日(土)

開催場所 尾瀬の郷交流センター  
(福島県檜枝岐村)

主催 環境省 (財)国立公園協会  
福島県、栃木県、群馬県、新潟県

自然公園ふれあい全国大会は、環境省が主唱する「自然に親しむ運動」の趣旨にのっとり、ともに地域の環境保全や振興に資するエコツーリズムを推進し、自然と私たちとの関係について考え、自然を守り、人と自然の豊かなふれあいを推進するためのものです。魚沼市からは星野市長、佐藤議長をはじめ市議会議員 15 名が出席して来ました。



## ● 白熱した文京区との交流野球 ●



去る7月29日、湯之谷地区でやまびこ荘を運営している東京都文京区の議員との親善野球が薬師グラウンドで行われた。若い議員(殆どいない)でのチーム編成ができず、年配の議員の力を借りながら、市長をはじめ執行部との混成チームをつくり、試合に臨んだ。71才の市長のフル出場と若く黄色い声援のもと、多くの試合をこなしている文京区と渡り合い、結果引き分けに終わった。

翌日、マッサージにかかった人の話は聞こえてこなかった、上々。

## 議員辞職

大平悦子氏が、一身上の都合により、8月19日付で議員の辞職願が提出され、許可されました。

# 市民の声

## 日本の食糧は

### 大丈夫か



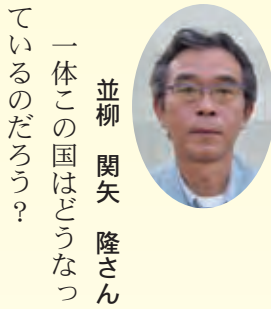
佐梨 桜井正美さん

収穫の秋を迎えた魚沼コシヒカリは、今年も豊作のようです。

生産過剰のため作付けが制限されているなかにあっても、農業者にとっては、春先から精魂込めて育て上げた水稲を豊作を感じながらコンバインで刈り取っているときに、米づくりへの自信と主食生産への自負心を全身で実感する時でもあります。

世界的な食糧危機の到来が危惧されているなかで「本当に日本の食糧は大丈夫なのか」と心配する市民感情は日々強まっているのではないのでしょうか。

こうした状況下において、現在、精魂込めて魚沼コシヒカリ栽培に携わっている農業者が報われる農業、そしてまた先達が骨身をけずって開墾してきた美田がこれ以上荒廃することのない農業、企業農業へシフトするのはなく家族農業による持続可能な農業の実現などを模索する農政が求められていると考えます。



並柳 関矢 隆さん

一体この国はどうなっているのだろうか？

## この国の行き先

今秋は、知事選、市長選、さらには衆議院選も予想されています。各種選挙を通じて日本農業の有り様が真摯に論議されることを期待します。

二年のうちに首相二人が職を投げ出したことは、どんな理由があるにしても許されるはずもない。世界に対し日本は、経済に限らず、文化や芸術の面においても、少なからず影響を与えている国の一つだと思ふのだが、二人の辞任は世界の目にどんな風に映っているのだろうか。

翻つてみれば、毎年三万人を超える人々が自殺し、親殺し、子殺し事件は毎日のように報じられる昨今である、大臣や官僚の失言、不祥事は、思い出せないくらい枚挙に暇がない、加えて米国発の金融不安は、世界中のシステムを脅かせており、全く底の見えない状況であると思います。

今はもう一度自分の足下をしっかりと見つめ直す時だと思いを強くしております。

## 市議会ホームページをご覧ください

魚沼市のホームページに、市議会のページを開設しています。

議会の構成、議員の紹介、議会の日程、本会議や特別委員会、会議録、議会だよりを掲載しています。どうぞご覧ください。

ホームページアドレス  
<http://www.city.uonuma.niigata.jp/>

## 議会を傍聴してみませんか



「市民の声」の原稿を募集します

- 字数3000字程度
- タイトル
- 住所・氏名
- 顔写真

を同封の上お寄せ下さい。

送り先  
魚沼市議会事務局  
(魚沼市今泉  
1488番地1)

市議会議場は広神庁舎3階にあります。傍聴の手続きは、受付用紙に氏名等を記入するだけです。お気軽においでください。

定例会は年4回(2月、6月、9月、12月)開かれます。

このほかに、必要に応じて臨時会が開かれます。

日程は、市報お知らせ版、ホームページでお知らせしています。

## あとかき

暑かった夏が一気に駆け去り、紅葉の季節となりました。

早いもので、中越地震とともに魚沼市が誕生して、丸4年がたちます。

本誌の広報委員でありました大平悦子氏が、市議会議員を辞職し市長を目指し活動を開始しました。地震の復旧復興に大半を費やし二期目を目指す市長と、人それぞれの思いがありますが、まずはご苦勞様でしたと申し上げたい。知事選挙が行われました。衆議院解散は、何時あってもおかし

くない状況のなか、市長選挙、市議会議員補欠選挙と、選挙の秋であります。国政も市政も、いろいろな問題を抱えており、こんな時だからこそ、選ぶことの大切さを考えさせられます。

世の中の喧騒を包み込むように、秋は静かに深まって往きます。

(桜井 将)